MESA BOOGIE®

M3 CARBINE™

取扱説明書

Greetings from the Home of Tone

MESA/Boogieのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプ・メーカーとしての我々に、絶大なる信頼を頂いているという事ですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたという事は、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはメサ・ファミリーの一員になったのです。メサ・ファミリーへようこそ!

我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、メサの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受出来るのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導きだす事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。...私達の新たなる友へ捧げます。

M3 CARBINE™

目次

使用上のご注意
概要 1-2

フロントパネル

入力端子 3

コントロール:
GAIN（ゲイン） 3
BASS（バス） 3
PULL DEEP（プル・ディープ） 4
MID（ミッド） 4
TREBLE（トレブル） 4-5
DI LEVEL（レベル） 5
PULL-PRE（プル・プリ） 5
MASTER（マスター） 6

MUTE（ミュート）LED 6
POWER（電源スイッチ） 6

バックパネル

FUSE（ヒューズ） 7
電源ソケット 7
MUTE（ミュート）スイッチ 7
SPEAKER OUTPUTS（スピーカー出力） 8
TUNER OUT（チューナー・アウト） 8
EFFECTS LOOP（エフェクト・ループ） 8
GROUND LIFT（グランド・リフト）、DIRECT OUT（ダイレクト・アウト） 9

サンプル・セッティング 10
セッティング・テンプレート 10
パーツ・シート 11

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは２つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスペックの機材ですので、規定に従って扱って下さい。

このユニットをラックにマウントする場合は、適切な空気の流れを確保する為の隙間が必要です。ユニットの前後を塞いだりカバーしたりしないで、少なくとも５センチ位の"息つぎ"が出来るスペースを空けて下さい。マウントする際には、ユニットの上にも２Uのスペースを空ける様にして下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!

M3 CARBINE™

取扱説明書

概要:

この度は、M3 Carbine（カーバイン）をお買い求めいただきありがとうございます。そしてメサ/ブギー・ファミリーへようこそ!

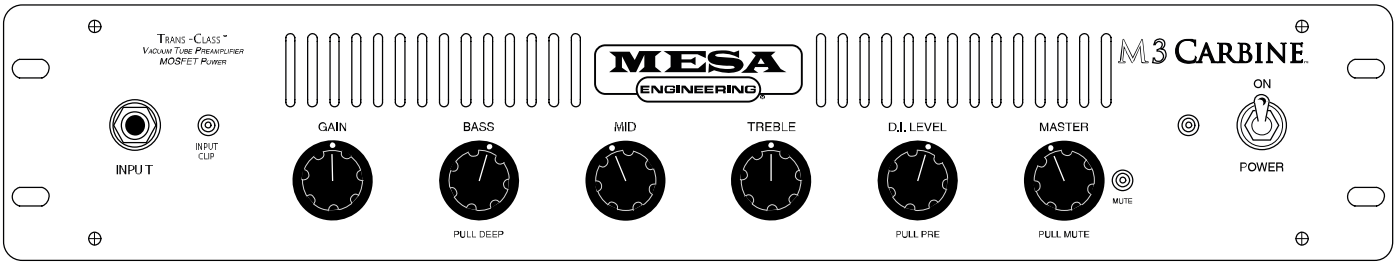
まず始めに、この度はアンプ・メーカーにメサ/ブギーをお選びいただきありがとうございます。私達は、あなたの音楽作りの手助けが出来る事を心から喜んでいます。我々が目指しているのは、少しでもあなたの作品が良いものになる様に、いつでも力になれる様に準備をしておく事なのです!私達は、この新しいアンプが、これから永きに渡り、あなたの信頼を獲得し、あなたの音楽を自由に表現する為の、良きパートナーとなれる事を確信しています。

M3 Carbineは、ベース・アンプのメサ・ファミリーの輪を大きく広げ、信じられないほど輪郭のすっかりした、エキサイティングなサウンドを提供します! 出力セクションには、M-PulseやBig Block 750やTitanと同時期に開発された、カスタム設計のモス・FET を採用しています。しかし、プリアンプとドライバー・セクションは、全く異なる回路を新たに設計しています。

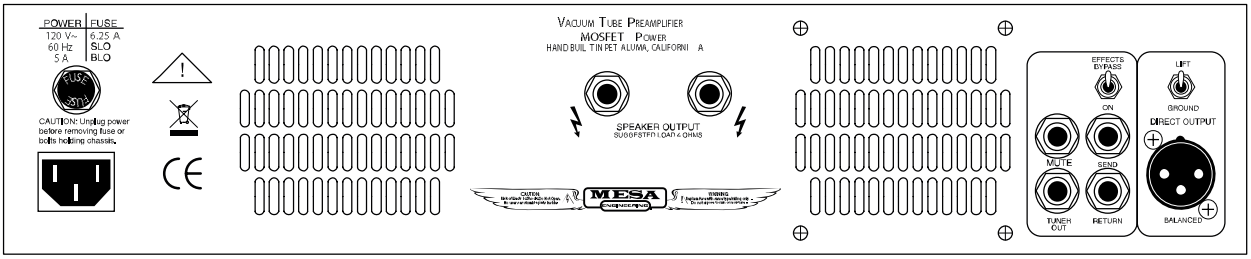
真空管プリアンプの最初の部分では、一般的なトーン・コントロールである、バス、ミッド、トレブルで、基本的なサウンドを形作りますが、パワーを形成するのはここからです。バス・コントロールには、PULL DEEP（プル・ディープ）という機能があり、つまみが押されていると低音域がタイトで明瞭になり、つまみを引っ張ると超低音域が強調され高音域に空気感が加えられます。

DI LEVEL（レベル）とMASTER（マスター）コントロールは、ステージ上で演奏のボリューム・レベルを、素早く簡単に調整する機能です。DI LEVEL（レベル）機能は、トーン・コントロールの前段と後段の、どちらを出力するのか選択する事が出来ます。つまみを押すと後段になり、つまみを引っ張るとPULL PRE（プル・プリ）が有効になり、全てのプリアンプをバイパスした信号が出力されます。MASTER（マスター）コントロールには、PULL MUTE（プル・ミュート）機能が装備されています。これは、ライブやスタジオで演奏する時に、スピーカーから音を出さずにチューニングをする為の機能です。また、リア・パネルのMUTE（ミュート）と表示されたファンクション・スイッチ・ジャックにフットスイッチを接続する事で、リモート・コントロールする事が出来ます。

フロントパネル: M3 CARBINE



バックパネル: M3 CARBINE



概要（続き）：

リア・パネルには、全てのプロにとって重要な機能が、シンプルにレイアウトされています。放熱の為の吸排気口の間にはスピーカー出力端子があり、吸排気口の右（後ろから見て）にはファンクション・スイッチ・ジャックがあります。MUTE（ミュート）と表示されたファンクション・スイッチ・ジャックは、フロント・パネルのプル・ミュートを、フットスイッチでコントロールする為のジャックです。マスター・エクスターナル・スイッチャーを使用すると、この設定をプログラムする事が出来ます。スピーカー出力端子には、フォーン・タイプのジャックが使用されています。

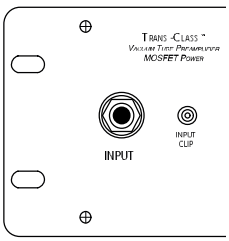
そのさらに右には、エフェクト・ループとDIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウトプット）セクションがあります。DIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウトプット）は、XLRのオス端子と、グランド・リフトとグランドの切り替えスイッチで構成されています。グランド・リフトは、回路とシャーシ・グランド接続のオン/オフを行います。このスイッチは通常GROUND（グランド）にして、回路とシャーシを接続した状態にしますが、ライブでPAミキサーに接続する場合や、レコーディングでコンソールに接続する場合等、シャーシの他にグランドをとってしまうとハムノイズの原因になる事があります。そのような場合はLIFT（リフト）側にして下さい。

エフェクト・ループはシリーズ接続になっており、SEND（センド）ジャックの上にあるEFFECTS BYPASS（エフェクト・バイパス）スイッチでバイパスする事が出来ます。TUNER OUT（チューナー・アウト）ジャックにチューナーを接続して、フロント・パネルのMASTER（マスター）コントロールのPULL MUTE（プル・ミュート）機能を使用すると、スピーカーから音を出さずにチューニングをする事が出来ます。リア・パネルのMUTE（ミュート）と表示されたファンクション・スイッチ・ジャックにフットスイッチを接続すると、MUTE（ミュート）をリモートで行う事が出来ます。

これで、M3 Carbineの機能と操作の概要はご理解いただけた事でしょう。これからいよいよ実際に音を出して、機能を確認していきます。ここで再びメサのアンプを選んで下さった事に感謝申し上げます。

フロントパネル・コントロール

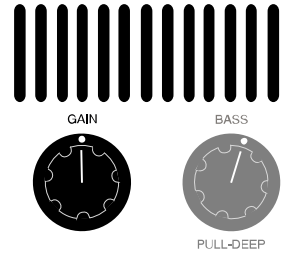
INPUT（インプット）： このジャックにベースの出力を接続します。ここに接続された信号は、M3 Carbineの全真空管プリアンプの最初の真空管に入力されます。この入力は、パッシブ、アクティブ、どちらのタイプのピックアップでも対応出来るヘッドルームを持っています。アクティブのピックアップを使用する場合は、GAIN（ゲイン）コントロールを10時から2時の間にすると、適正なヘッドルームになります。この設定を高めにすると、ソフト・クリップが聞こえる様になりますが、気にする必要はありません。ハイパー・クリーン・サウンドをクリーン過ぎると感じたら、プリアンプをもっとドライブさせて明瞭度を落とすのも良いでしょう。



ノート: GAIN（ゲイン）コントロールを高く設定して、プリアンプをドライブさせたら、BASS（バス）コントロールは下げた方が賢明です。こうする事により、スピーカーに対するダメージを避ける事が出来ますし、低音域のサウンドがタイトさを失ったり、レスポンスが鈍くなる事を回避出来ます。

M3 Carbineのプリアンプ管のヘッドルームが、飽和してクリップが始まると、入力のクリップLEDが点灯します。この段階でクリップしてしまうと、このあとクリーン・サウンドにする事は出来ません。前にも触れましたが、入力段階でのクリップや歪みは、サウンド・キャラクターとして必要とされる場合があります。クリップLEDが点灯しても、アンプに損傷はありませんので安心して下さい。パッシブ・ピックアップのベースでは、ゲインを高めに設定しても、このLEDが点灯するような事は、ほとんどないでしょう。アクティブ・タイプや、最近の高出力ピックアップですと、ゲインを極端に高くしたり強いアタックの演奏をすると、LEDは頻繁に点灯します。

GAIN（ゲイン）： このコントロールは入力感度を調整し、サウンド・キャラクターをある程度決定します。このコントロールを低め（12時より下）にすると、ヘッドルームに余裕のある明るいサウンドになります。この領域にすると、高次倍音が豊富な高音域が透明感のあるサウンドになります。このサウンドは、チョッパーを多用するファンキーなベーシストに、特に好まれます。低音域と中音域に於ける、ゴムバンドを弾いたような若々しいサウンドは、1弦（G）を弾いても耳障りで詰まったような感じにはなりません。



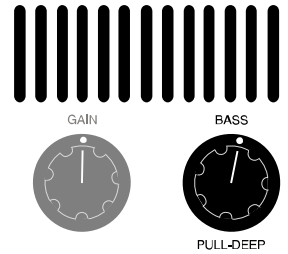
GAIN（ゲイン）コントロールが１２時を過ぎると、豊かで"ほど良く丸い"サウンドになり、徐々にヘッドルームが狭まってきます。12AX7真空管が歪み始め、真空管オーバードライブ・サウンドになってきます。

12時から2時半の領域では、クラシックで暖かみのある真空管サウンドになり、この狭い領域内には様々なサウンドが詰まっています。つまみを少し捻るだけで、アタックのキャラクターに重要な変化が現れます。

ゲインを変える事により、そのサウンドの変化が、実際に音楽のノリに影響を与えるのです。また、サウンドに深みを加える事にも繋がります。アタックやサスティーンの違いが、ベーシストやバンド全体を変えるという事を理解するには時間がかかります。

BASS（バス）：

これは、真空管プリアンプの中で低音域の量を調整しますので、とても解り易いコントロールです。BASSコントロールは、ピーク・ディップ・タイプではなく、シェルビング・タイプのコントローラーです。これはQポイントの周波数よりも低い帯域の音を増幅させたり減衰させる動作をします。

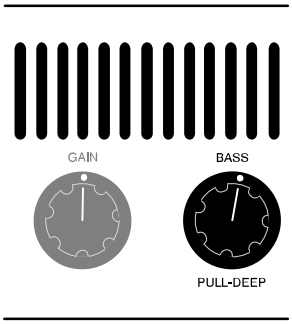


BASSコントロールで実際にゲインをコントロールする時のロール・オフ周波数は55Hzになっており、その上下の倍音成分も一緒にコントロールします。このコントローラーが12時を過ぎると、321Hzをピークにして、1オクターブに付き6db ずつゲインが上がります。12時にすると"平"（増幅も減衰もしません）になります。BASSコントロールを12時よりも下げると、55Hzまでの音とその倍音成分が減衰したサウンドになり、55Hz から20Hzの音が、1オクターブに付き6db ずつゲインが下がります。コントローラーを7時半にすると -20db になります。

フロントパネル・コントロール（続き）

この帯域幅の広いアクティブ・ロータリー・コントロールは、従来のパッシブ・タイプのコントローラーよりも、遥かにバスのキャラクターを際立たせる事が出来ます。その低音域の増幅量は、薄っぺらなトランジスターのアンプ等比べ物にならないレベルです。言うまでもない事ですが、この強力なコントローラーは、音楽的にも最適な調整能力を持っています。

PULL DEEP（プル・ディープ）：



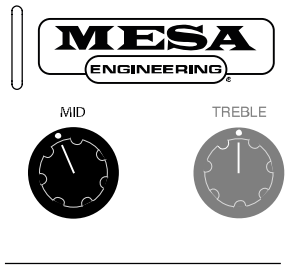
M3 Carbineには、BASS（バス）コントロールで、２つの異なる低音域をコントロールする機能が搭載されています。

つまみが押されていると、バスのカット・オフ周波数が高い設定になり、超低音域をコントロールする事が出来ません。結果的にタイトでレスポンスの速い、輪郭のはっきりしたライブ・パフォーマンス向きのサウンドになります。またレコーディングに於いては、ドラムのキックと同期した、パンチの効いたベース・サウンドに最適です。

つまみを引っ張ると、超低音域までカバーした、暖かみのある豊かな低音のサウンドになりますので、少人数編成のバンドに向いています。超低音域と同時に高音域も少し強調されるので、サウンドに空気感が加わります。この設定をロック、ブルース、R & B等のトリオ・バンドで試してみる事をお勧めします。

MID（ミッド）：

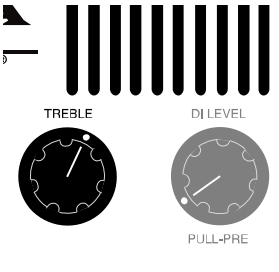
このコントローラーは、全てのトーン・コントロールの中で、唯一パッシブ・タイプのコントローラーです。中音域のコントロールをパッシブ・タイプで行う事は、音楽的にも適切な選択と言えます。このコントローラーは、広い帯域を滑らかなカーブ特性でカバーしています。BASS（バス）コントロールとは異なり、増幅のみのコントロールとなりますが、中音域の成分を十分取り除く事も出来ます。しかし、アクティブ・タイプのコントローラーの様に極端に減衰させる事は出来ません。



お分かりの様にこのコントロールは、中域の周波数を形作るのに驚くほどうまく機能しています。サウンド・キャラクターは素朴で、他のトーン・コントロールと絶妙なコントラストを生み出しています。このコントローラーで、悪いサウンドを生み出す方が難しいのではないかと思えてしまうほどです。

Mesa/Boogie、間違いなくパッシブ・タイプのミッド・コントロールを選びます。それはこの10年間、パッシブ・タイプで素晴らしいアンプを作り続けてきたからです。これは紛れも無い事実なのです。

TREBLE（トレブル）：



TREBLE（トレブル）は、BASS（バス）同様、アクティブ・シェルビング・タイプのコントローラーを使用しています。このコントローラーは、元々高次倍音を処理する能力に優れています。BASS（バス）コントロールの様に、倍音成分も含んだQポイントの周波数よりも高い帯域の音を増幅させたり減衰させる動作をします。

このコントローラーが１２時を過ぎると、723Hzを出発点にして、+20dbに達するまで、１オクターブに付き6db ずつゲインが上がります。723Hzよりも上の周波数は、+20dbに達すると20Khzまでそのゲインを保持します。これは、従来のパッシブ・コントロールの良さを生かしつつ、さらにサウンドに甘さを加える働きをしています。このコントロールを１２時よりも下げると、3.2Khzからシェルビング・ポイントの723Hzにかけて、１オクターブに付き6db ずつゲインが下がります。

フロントパネル・コントロール（続き）

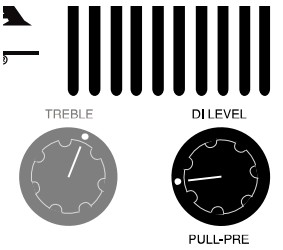
723Hzよりも上の周波数は、-20dbに達するとコントローラーを７時半にするまでそのゲインを保持します。この周波数帯域を減衰させる能力は、信じられないほど豊かで暖かみのある、懐かしのR&B やジャズ・サウンドを再現する事を可能にしています。

このアクティブ・シェルビング・タイプのTREBLE（トレブル）コントロールは、一連の回転式トーン・コントロールをまとめ上げる、強力な能力を持っています。M3 Carbineを初めて使用した多くのプレーヤーが、このトーン・コントロールとゲインが生み出すサウンドは、今まで経験した中でベストだとコメントしています!

ノート: BASS（バス）コントロールの時と同様に、このタイプのコントローラーは強力なので、微妙な調整が必要になります。TREBLE（トレブル）の場合はなおさらです。なぜなら、高音域は音が大きく感じられるからです。極端な設定にすると、耳を痛める可能性もあります。もう一つの注意点は、この設定を高くすると、一緒にノイズ・フロアも大きくなってしまうという事です。

DI LEVEL（レベル）:

これは、リア・パネルにあるXLR端子のDIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウト）の出力レベルをコントロールします。このコントローラーは、ほとんどのPAミキサーやレコーディング・コンソールの入力レベルに対応出来ます。



PULL-PRE（プル・プリ）:

これは、つまみを押したり引っ張ったりする事で、DIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウト）に出力する信号を切り替える機能です。つまみを押すとPOST（ポスト）になり、全てのトーン・コントロールで調整されたプリアンプのサウンドが出力されます。つまみを引っ張るとPRE（プリ）になり、プリアンプをバイパスして、ベースの音が直接出力されます。PRE（プリ）にすると、GAIN（ゲイン）、MASTER（マスター）、そして全てのトーン・コントロールの影響を受けていない信号が、DIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウト）に出力されます。ベースの出力信号が、ミキシング・コンソールの入力インピーダンスに合う様に調整されて、直接出力されます。POST（ポスト）にすると、GAIN（ゲイン）、MASTER（マスター）、そして全てのトーン・コントロールの影響を受けた信号が、DIRECT OUTPUT（ダイレクト・アウト）に出力されます。これは、M3 Carbineをスピーカー・エンクロージャーに接続した状態での設定ですので、ミキシング・コンソールへの信号は、ゲインとトーン・コントロールで少し調整する必要があります。

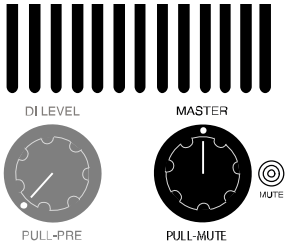
PRE（プリ）は、多くの低音域成分を必要とする、大規模なステージでのライブの時に便利です。そのような場合は、たいてい、ベースの出力をハウス・エンジニアがコントロールするPAミキサーに接続するので、アンプの出力はシンプルな方が調整し易いのです。POST（ポスト）は、ダイレクト・アウトを直接ミキシング・コンソールに接続してレコーディングするのに最適です。この場合は、アンプのトーン・コントロールをフルに活用して、完全に作り込んだ音を出力すると良いでしょう。

ノート: M3 Carbineをコンソールに接続する時は、必ずDI LEVELを絞りきった状態で行って下さい。接続し終わってからDI LEVELを徐々に上げていく様にして下さい。この手順を守る事で、機器や耳の損傷を避ける事が出来ます。

フロントパネル・コントロール（続き）

MASTER（マスター）:

MASTER（マスター）コントロールは、トランス・クラス・パワー・セクションへのレベルを調整し、M3 Carbineの最終的な出力レベルを決定します。GAIN（ゲイン）コントロールや、トーン・コントロールで作り上げられたサウンドを、プリアンプの最終段のMASTER（マスター）コントロールで仕上げます。



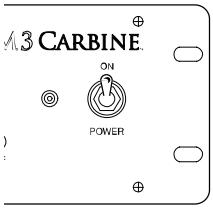
ノート: MASTER（マスター）コントロールは、車のアクセル・ペダルに相当しますので、操作には注意が必要です。スピーカーや耳に損傷を与えない為に、最初は絞りきった状態から始めて下さい。

MUTE（ミュート）LED:

このLEDは、フロント・パネルのMASTER PULL MUTE（マスター・プル・ミュート）か、リア・パネルのファンクション・スイッチ・ジャックで、チューナー・ミュート機能が有効になった時に点灯します。このLEDが点灯している間は、SPEAKER OUTPUT（スピーカー出力端子）から信号は出力されません。

POWER SWITCH（電源スイッチ）:

これは、M3 Carbineに電源を供給するためのスイッチです。電源のアースがとれている事を確認して下さい（これは、アンプのみならず、演奏者の安全の為にも重要な事です）。また、コンセントに適正な電圧が供給されている事を確認して下さい。

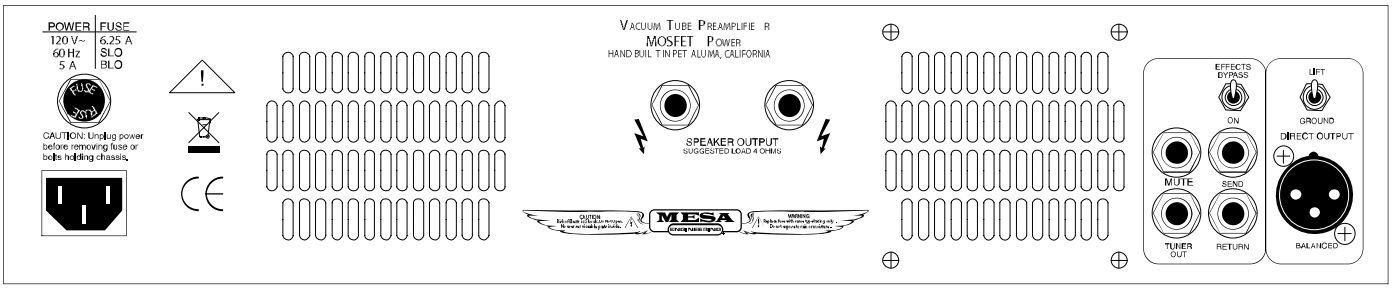


メモ: 電電ケーブルは、絶対に他のものを使用しないで下さい。アンプを損傷したり、火事の原因になる事があります。

フロントパネルの機能トコントローラーに関しての説明は以上ですが、これからバックパネルについて説明します。

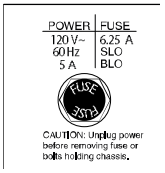
バックパネル・コントロール:

バックパネル: M3 CARBINE



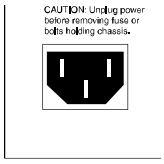
FUSE(ヒューズ):

これは、M3 CarbineのA.C.メイン・ヒューズです。交換する場合は、必ずSLO-BLOタイプのヒューズを使用して下さい。M3 Carbineはとても高出力ですので、これはとても重要です。



電源ソケット:

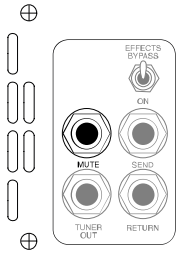
ヨーロッパ・スタイルの取り外し可能な電源コードをこのソケットに差し込みます。別売でより強力な電源コードも販売しています。アンプの電源を入れる前に、必ず電源コードがソケットにしっかり入っている事を確認して下さい。



メモ: 3芯プラグの電源コードを他のものに変えないで下さい。

MUTE(ミュート)スイッチ:

このフォーン端子は、フロント・パネルのチューナー・ミュート機能を、マスター・エクスターナル・スイッチャーを使用して動作させる為のものです。このマスター・エクスターナル・スイッチャーには、各スイッチをプログラムして、1つのスイッチで多くの機能を動作させる事が出来ます。



M3 Carbineのファンクション・スイッチ・ジャックには、市場で販売されているシンプルなチップ・トゥー・グランドのラッチ・タイプ(モーメンタリーではなく)のスイッチを使用する事が出来ます。

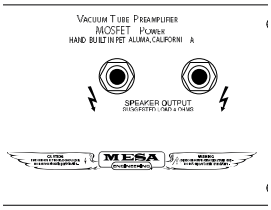
チューナー・ミュート機能の操作方法: TSフォーン端子のケーブルをMUTE(ミュート)ジャックに接続し、反対側のプラグをマスター・エクスターナル・スイッチャーか、市販のラッチ・タイプ(モーメンタリーではなく)のフットスイッチに接続します。

ノート: フロント・パネルのPULL MUTE(プル・ミュート)機能はフットスイッチよりも優先します。フロント・パネルのMASTER(マスター)コントロールを引っ張ってMUTE(ミュート)機能をオンにしたら、リア・パネルのフットスイッチでこの機能をオフにする事は出来ません。

バックパネル・コントロール（続き）：

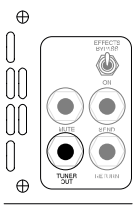
SPEAKER OUTPUTS（スピーカー出力）：

この端子は、M3 Carbineのスピーカー出力です。このジャックには通常のフォーン・タイプのプラグを接続します。ここに８オームのスピーカーを接続すると、M3 Carbineは、およそ１５０ワットのクリーン・パワーで出力します。また４オームのスピーカーを接続すると、およそ３００ワットのクリーン・パワーで出力します。



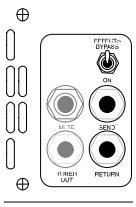
TUNER OUT（チューナー・アウト）：

リア・パネルに装備されているこの端子は、ラック・マウント・タイプのチューナーと接続すると、ラック内で接続が済んでしまうので便利です。



エフェクト・ループ：

M3 Carbineでは、外部のエフェクト・プロセッサーを使用する事が出来ます。この回路は、プリアンプとパワー・セクションの間に直列に接続されます。接続は直列（プリアンプの出力がエフェクト・プロセッサーに入力され、その出力がパワー・セクションに戻ります）ですので、エフェクト・プロセッサーのクオリティーがとても重要になります。エフェクト・プロセッサーのクオリティーが低いと、アンプの出力のクオリティーも落ちてしまいます。この 端子の入出力インピーダンスは、市場に出回っているほとんどのプロセッサーと互換性がありますので、そんなに高級な製品でなくても大丈夫です。ただし、エフェクト・プロセッサーのクオリティーが出力のクオリティーに大きな影響を与える事は覚えておいて下さい。



ノート: 接続に使用するケーブルは、品質が良くて出来るだけ短い物を選んで下さい。長さの目安は90センチと考えて下さい。９０センチを超えると高域の減衰が始まり、中高域のパンチと高域の明瞭度が落ちてきます。

EFFECT BYPASS（エフェクト・バイパス）スイッチは、エフェクト・ループの回路を"ハード・バイパス"しますので、スタジオで使用する時やエフェクト・ループを使用しない場合は、この設定にする事を推奨します。聴き比べて明らかにわかるほどではありませんが、信号がこの回路を通らない事により、出力信号はピュアになります。

エフェクト・ループの使い方:

1) SEND（センド）ジャックとエフェクト・プロセッサーの入力を接続する

2) RETURN（リターン）ジャックとエフェクト・プロセッサーの出力を接続する

3) EFFECT BYPASSスイッチをON（オン）にする

4) EFFECT BYPASSスイッチをONとBYPASSで切り替えながら、どちらでも音量が同じになる様に、エフェクト・プロセッサーの入出力レベルを調整します。エフェクト・プロセッサーの入力でクリップする事が無い様に、M3 Carbineの出力レベルを調整する事も忘れないで下さい。

ノート: エフェクト・ループは、プロフェッショナル仕様のラック・マウント・プロセッサーの適正レベルに調整されています。ペダル・タイプのエフェクターを使用される場合は、フロント・パネルの入力端子に直列（楽器の出力をエフェクターに入力して、エフェクターの出力をアンプの入力端子）に接続して下さい。エフェクト・プロセッサーを接続する事で音質が変わる事がありますが、これはある程度仕方の無い事です。それでもエフェクト・プロセッサーを使用するかどうかを判断するしかありません。

バックパネル・コントロール（続き）：

GROUND LIFT（グランド・リフト）、DIRECT OUT（ダイレクト・アウト）：

この端子には、エフェクト・ループを含むプリアンプ全体の信号が出力されます。出力される信号はバランスですので、ライブ会場のPAやレコーディング・コンソールに、直接接続する事が出来ます。この回路には 2 つの要素; (1) XLRのオス端子 (2)グランド・リフト・スイッチがあります。

GROUND LIFT（グランド・リフト）：このスイッチは、XLR端子と繋がっているシャーシ・グランドと、回路の接続を断ちます。コンソールに接続してハム・ノイズが発生しなければ、このスイッチはGROUND（グランド）のままで大丈夫です。コンソールに接続してハム・ノイズが発生したら、このスイッチをLIFT（リフト）にして、回路との接続を断って下さい。この方法は、信号からグランド・ループ・タイプのノイズを取り除くのに有効です。

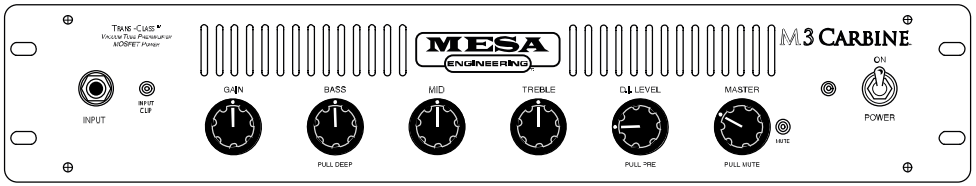
ハム・ノイズの無い信号を実現する為に、3-2グランド・アダプターを使用して電源ケーブルのグランドを浮かせる場合もあります。

ノート: 信号経路が複雑だと、様々な箇所でグランド・ループが起こる可能性があります。GROUND LIFT（グランド・リフト）スイッチは完全ではありませんので、グランド関連の問題は様々な方法で解決するしかありません。

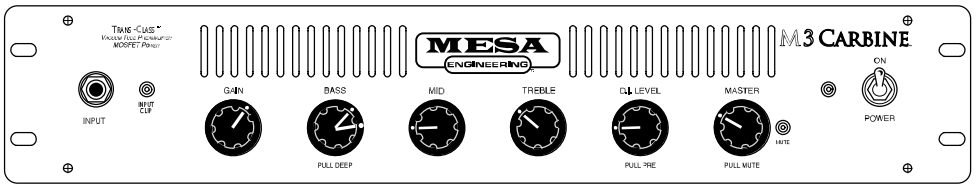
さあ、これでリア・パネルに関する説明は終了です。あとは実際にベースを接続して、M3 Carbineのサウンドを思う存分満喫して下さい。我々は、このアンプがあなたに素晴らしい音楽の発見とインスピレーションをもたらす事を願っています。

サンプル・セッティング

SAMPLE #1: STRAIGHT UP GREAT

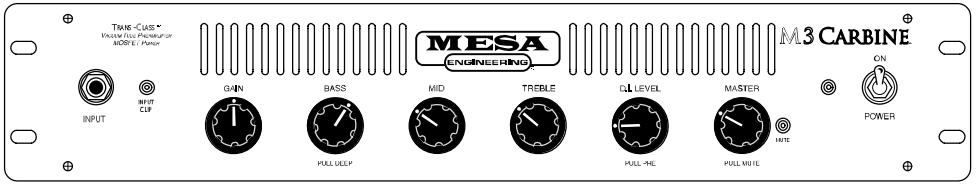


SAMPLE #2: BIG & WIDE

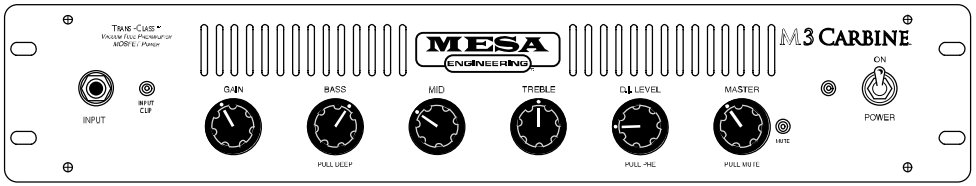


(Pull)

SAMPLE #3: TIGHT TRACKING

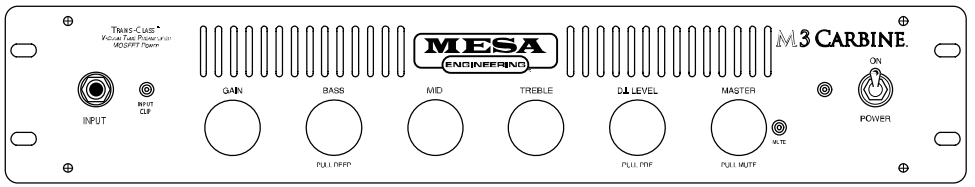


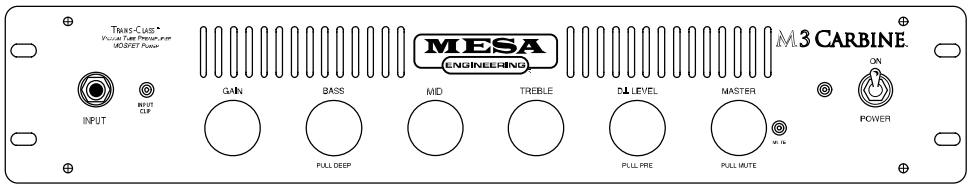
SAMPLE #4: SLAP HAPPY

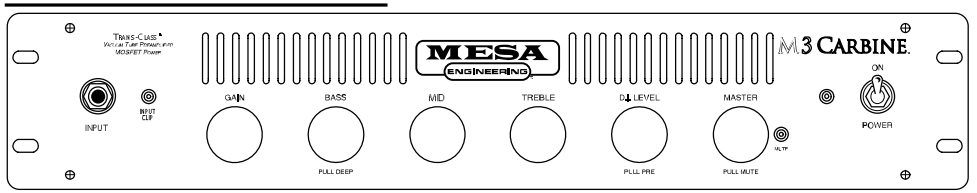


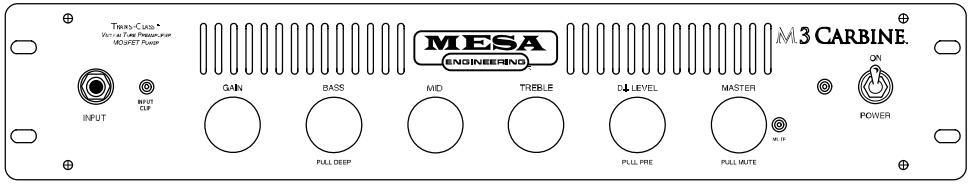
(Pull)

ユーザ・セッティング・テンプレート

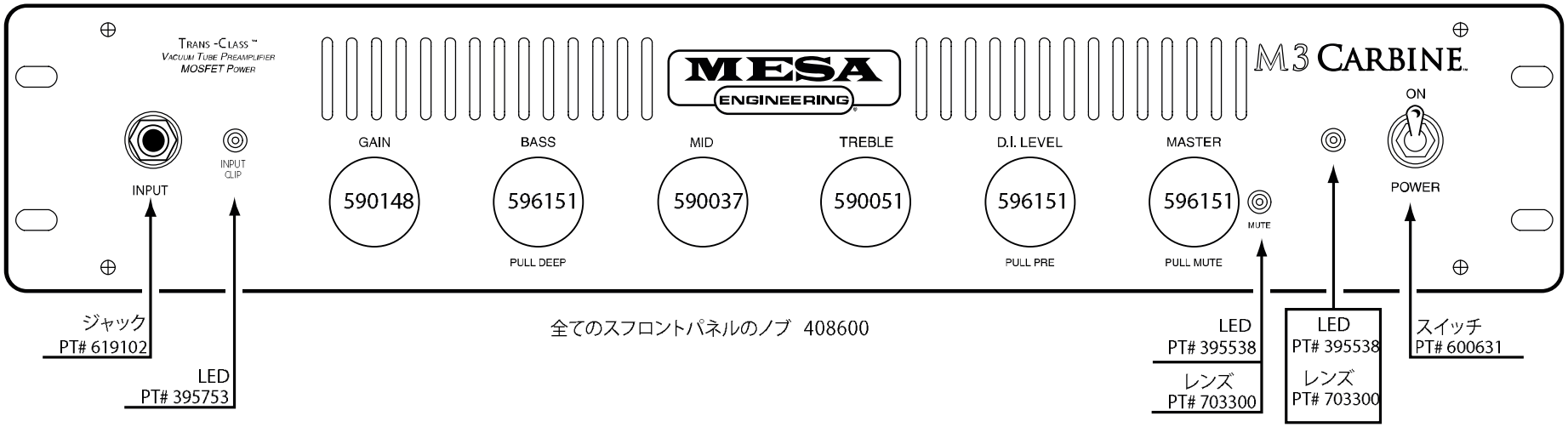




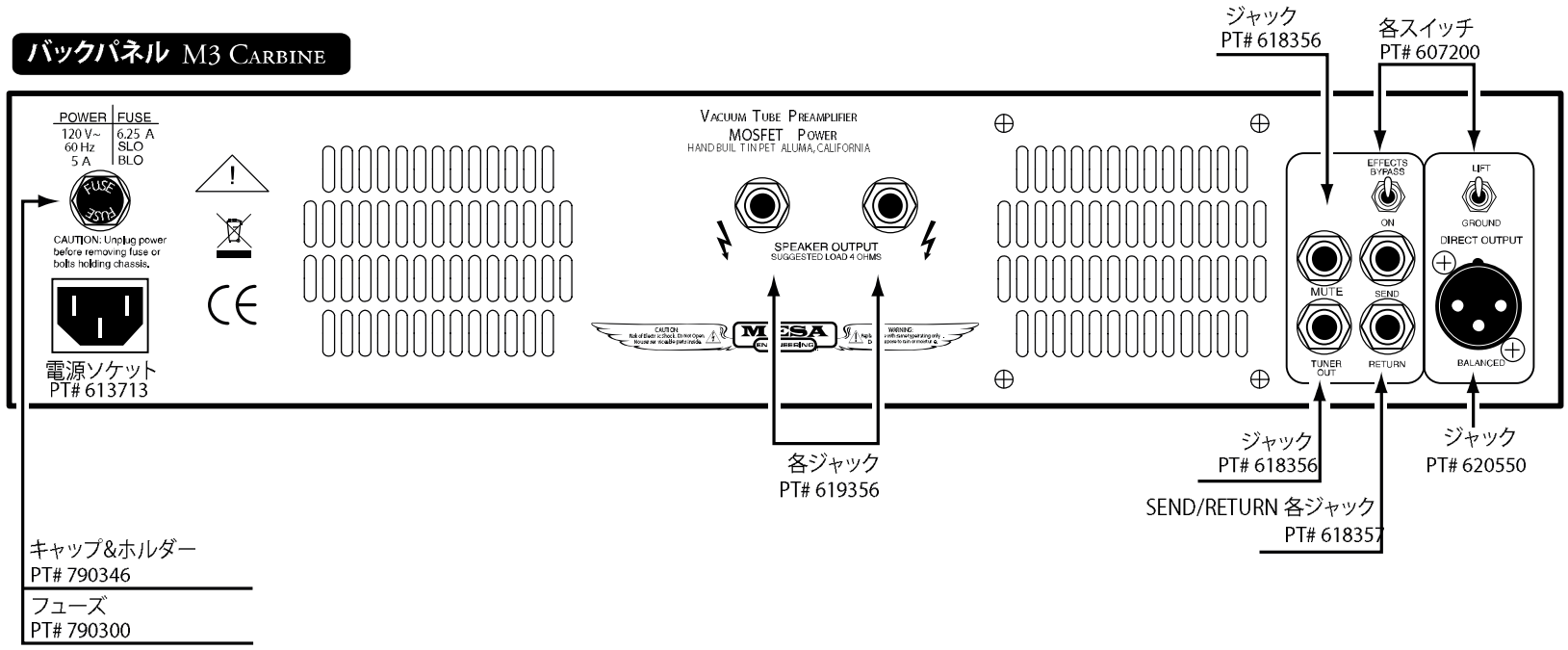




フロントパネル M3 Carbine



バックパネル M3 Carbine



The Spirit of Art in Technology

MESA ENGINEERING

(707) 778-6565 FAX NO. (707) 765-1503

1317 Ross Street Petaluma, CA 94954

USA

株式会社 キョーリツコーポレーション

www.kcmusic.jp / www.mesaboogie.jp

□本社・名古屋営業所 〒468-0002 名古屋市天白区焼山1-813
TEL 052-847-5300(代) FAX 052-847-5310

□東京営業所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-11 堀留Dビル4F
TEL 03-5614-2081 FAX 03-5614-2166

□大阪営業所 〒564-0051 大阪市吹田市豊津町11番34号 第10マイダビル301号
TEL 06-6310-7833 FAX 06-6310-7858

□福岡営業所 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町2-4 KSコモンドビル201号
TEL 092-271-1125 FAX 092-271-1203

□仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目16-23 SLSビル3F
TEL 022-212-9311 FAX 022-212-9322

□札幌営業所 〒060-0061 札幌市中央区南一条西六丁目15-1 札幌あおば生命ビル9F
TEL 011-242-3323 FAX 011-242-3325